

質問 所議員（自民 揖斐郡）令和8年10月1日（木）

1 木曽三川の治水事業と木曽川水系連絡導水路事業の推進について

答弁 知事

近年、気候変動を背景に記録的な猛暑が続き、ダムの水が底をつくような状況が生じる一方で、線状降水帯など極端な雨の降り方が頻発しており、豪雨や渇水など水を巡る災害は今後更に深刻さを増していくおそれがあると考えております。そのため、個別の災害対応だけでなく長期的な視点に立って治水事業や渇水対策を着実に進めていくことが求められます。いつも申していることでありますけれども「事前の一策は事後の百策に勝る」と言われるように、「事前防災」の考え方に立ち、備えを確実なものにしていくことが重要だと考えております。

過去から度重なる水害に悩まされてきました木曽三川のうち、揖斐川においては、ただいま議員からご指摘いただきましたように、徳山ダムの建設によりまして、流域の治水安全度が飛躍的に向上いたしました。しかしながら、長良川や木曽川においては、現在進められている根幹的な治水事業が未だ完成に至ってはおりません。

特に、近年頻発します豪雨災害に対しては、流域全体のダムの統合管理や事前放流によって被害を大幅に減らすことが可能となっており、こうした体制の整備が急務となっております。

現在、長良川で県事業として進める内ヶ谷ダムの建設につきましては、令和13年出水期の運用開始を目指して事業を進めているところでございます。また、国の直轄事業として進められている長良川遊水地や、木曽川における新丸山ダムなどの治水事業について、一日も早く事業が完成するよう、国に働きかけてまいります。

豪雨災害とともに、深刻化が懸念される渇水への対策については、現在、徳山ダムの水を異常渇水時に揖斐川から木曽川及び長良川に導水する木曽川水系連絡導水路事業が進められているところでございます。

本事業と徳山ダムを含む木曽川水系ダム群を一体運用する「水系総合運用」によって、可茂・東濃地域の取水制限を大幅に縮減できると試算されており、既存の施設を最大限に有効活用するソフト対策と、渇水リスクの低減に資するハード対策を組み合わせ、災害防止と共に、水資源の有効活用を図ってまいります。

特に本事業につきましては、長年渇水に悩まされてきた可茂・東濃地域の住民の生活を支えるとともに、県全体でリニアを活用したまちづくりを推進する上で、この地域の水の安定供給といった観点からも、重要なプロジェクトであると考えております。

本事業の実施に当たりましては、地下水など環境への影響に十分配慮するとともに、県内企業の活用が図られることも重要な視点でございます。

今後、導水路を含む木曽三川全体の水系総合運用の実現に向けて、国及び水資源機構に働きかけてまいります。また、本事業の実施に当たり、県内企業の受注機会が最大限確保されるとともに、木曽三川とその周辺環境への十分な配慮が図られるよう努めてまいります。

担 当 課	河川課、水資源課
電話番号	(河) 058-272-8585 (水) 058-272-8830
メー ル	(河) c11652@pref.gifu.lg.jp (水) c11668@pref.gifu.lg.jp